

海洋科全体計画

関連法規等
日本国憲法 教育基本法 学校教育法 学習指導要領 岩手県教育指導指針 洋野町学校教育目標
海洋教育の目指す子ども像
○海の自然に親しみ、進んでかかわろうとする子ども ○海について進んで調べようとする子ども ○海の環境保全に主体的にかかわろうとする子ども ○海を持続的に利用することの大切さを理解できる子ども

学校教育目標
○進んで勉強する子ども ○体のじょうぶな子ども ○心のゆたかな子ども ○みんなのためにつくす子ども

児童の実態
・明るく素直 ・決められたことはきちんとやり抜こうとする。 ・よく働く。 ・面倒見がよい。 ・自主性に欠ける面がある。

海洋教育の目標
海の豊かな自然と親しむ活動や、身近な地域社会の中で海とのつながりを感じ取れるような体験活動、海について調べる活動、その保全活動等の体験を通して、海に対する豊かな感受性を培い海に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結びつきについて理解させ、持続可能な社会の形成者としての資質、能力、態度を養う。

父母・教師の願い
・優しさと思いやりをもち、他と協力し合う気持ちを育てたい。 ・自分のよさや可能性を伸ばし、自己肯定感を持てる子どもに育てたい。 ・目標に向かって前向きに粘り強く取り組もうとする気持ちを育てたい。

各学年の目標				
	親しむ	知る	守る	利用する
3・4年	海の生き物を育てたり海にかかわる施設の見学や船の体験をしたりして、生き物の成育環境や海にかかわる人々に関心をもち、進んで海にかかわることができるようにする。	海の生き物の特徴やその生育環境の違い、海にかかわる歴史や文化やその地域による違いに関心をもち、比較しながら調べることができるようにする。	海の環境を保全する活動を通して、自然環境の状況や自分たちの生活が自然環境に及ぼす影響が分かり、進んで海の自然を守ることができるようにする。	地域の特徴を活かした海の産業や日本各地は海によってつながっていることを知り、海とともに生活しようとするようにする。
5・6年	海にかかわる仕事の体験や施設の見学を通して、海の自然や文化に親しんだり、海にかかわる多様な仕事に触れたりして、進んで海にかかわることができるようにする。	海の生き物の多様性や生態系、海の歴史や文化に関心をもち、関連づけたり推測したりして調べることができるようにする。	地球規模の環境問題や国際的な取り組みを調べ、海の環境保全のために自分たちができることを考え、様々な方法で取り組むことができるようにする。	日本の水産業や海運、海洋資源について調べ、人々の豊かな生活を支えてきた海の様々な役割やきまりを理解するとともに、世界の国々と協調しながら海を利用しようとするようにする。

◎単元

3年	○ふるさとの川探検隊 ○川に住む生き物 ○海に住む生き物	○中野の地区を知ろう ○洋野町を知ろう	○ふるさとの川探検隊	○中野の地区を知ろう ○洋野町を知ろう
4年	○ふるさとの川探検隊	○ふるさと洋野を知ろう ○洋野の大地の作り ○海と山のつながり	○ふるさとの川探検隊	○ふるさと洋野を知ろう
5年	○有家川調査隊 ○有家川の先にある太平洋	○ウニ・アワビを育てる洋野 ○洋野の大地の作り	○有家川調査隊 ○わたしたちのふるさと中野 ○有家川の先にある太平洋	○ウニ・アワビを育てる洋野 ○生命のつながり
6年	○有家川調査隊 ○有家川の先にある太平洋	○洋野の大地の作り	○生命のつながり ○ふるさとを支える人として	○ふるさとを離れて

指導方法	指導体制
○体験的活動の重視 ○学習内容や狙い、学年実態と関連させた学習形態の工夫 ・一斉、グループ研究、個人研究等 ○子どもたちの個性を生かした個別指導	○担当者や学年会における連絡調整と支援体制の確立 ○担任外との連携を密にした授業協力 ○地域の関係機関、保護者、地域の方との連携

評価計画

○観点別学習状況を把握するための評価基準の作成 ・評価の観点 ①学習への関心・意欲・態度 ②問題解決能力 ③コミュニケーション能力 ④情報活用能力 ⑤学び方・ものの考え方 (総合に準じる) ○ポートフォリオを活用した評価 ○年間指導計画の作成と実施

家庭・地域社会との連携協力
○町内海洋関係施設への見学等の要請 ○地域の方や団体への協力の要請 ○体験活動実施時や移動の際の保護者の協力 ○教育委員会、その他専門の知識を持つ方の授業援助

教科との関連	
社会	○社会的現象を的確に観察・調査し、各種の資料を効果的に活用し、調べたことを表現すること ○海とかかわって、地域、産業、地理的な内容をとらえること。
理科	○自然現象の性質や規則性、相互の関係等への理解 ○観察・実験の技能と、過程や結果の的確な表現 ○海とかかわって、大地の作りや川の流れなどの地学的な内容や、生きものについての内容をとらえること
※その他、海とかかわる学習内容について横断的総合的に関連させていく。	

3年 単元計画

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）			
		親しむ	知る	守る	利用する
つかむ 1	○4年生から海洋学習について学ぶ。		・これまでの学習について知る。 (ノート)		
調	○見学の計画を立てる。 (有家浜生き物調べ) ・海の様子。 ・どんな生き物がいるか。 ・課題づくり (3)	・浜や海に親しむ。 (活動)	・海の様子を知りどんな生き物がいるか調べる。 (ノート)		
べ る 2 3	○有家浜生き物調べ。 ・実際にどんな生き物がいるか調べる。 ・どんな場所にいるか。 ・種類。 ・大きさ ○ノートにまとめる。 (5)	・海の生き物に親しむ。 (活動)	・見つけた生き物を図鑑などを使って調べる。 ・生き物の特徴を知る。 (ノート)		
	○見学の計画を立てる。 (有家浜生き物調べ) ・季節による生き物の違い。 ・海の様子の違い。 (5) ○有家浜生き物図鑑づくり ・有家浜にすむ生き物。 ・特徴。 ・季節による違い。 (5)	・季節による海の違い、生き物の違いに気付き親しむ。 (活動)	・季節によってなぜ海の生き物の種類が違うか調べる。 (ノート・発言) ・見つけた生き物の特徴や気付いたことを図鑑にまとめ、生き物について知る。 (ノート・図鑑)	・生き物と環境について気づき、きれいな海を守ろうとする。 (ノート)	
	○見学の計画を立てる。 (南部もぐり見学) ・ヘルメット式潜水。 ・どのような道具。 ・昔から伝わる方法。 (5)	・昔から伝わる潜水法に親しむ。 (活動)	・ヘルメット式潜水について知る。 (活動・ノート)		・海の資源を利用していることに気付く。 (ノート・発言)
まとめる 4	○活動を通して分かったこと・感じたこと・考えたことについてまとめる。 ・発表会に向けて資料作り (4)				
ひろげる 2	○発表会をする。 ・次年度へ向け活動の視点をもつ。 ・さらに調べてみたいことへの意欲付け。(2)		・今後の課題につなげている。 (発表)		

4年 単元計画

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）			
		親しむ	知る	守る	利用する
つかむ 1	○海について知る。		・生活経験から知っていることをまとめている。 (ノート)		
調べる 2 3	○学習の計画を立てる。 ・昨年度の学習を伝える。 ・資料づくり。 ○3年生への発表会。 (5)	・海洋学習を通して海への興味・関心を伝える。 (発表)			
	○見学の計画を立てる。 (防潮堤見学) ・津波からまちを守る施設とその限界。 ・津波から身を守る方法。 ○個人新聞にまとめる。 (4)		・津波からまちを守る施設について調べている。 ・地震、津波が起きた場合どのように行動すれば良いか調べる。 (活動・質問)	・津波からまちを守る施設の役割や限界を知ることによって自分の命を守ろうとする。 (活動・新聞)	
	○活動の計画を立てる。 (有家浜生き物調べ) ・有家浜にすむ生き物。 ・昨年との比較。 ○ノートにまとめる。 (4)	・有家浜にすむ生き物を見つける。 (活動)	・どんな生き物がいるか知る。 ・昨年度と比較する。 (インタビュー・ノート)		
	○学習の計画を立てる。 (下水道・浄化槽出前講座) ・使用後の水の行方。 ・下水処理の方法。 ・水の循環 ○ノートにまとめる (3)	・下水を処理する微生物を観察する。 (活動)	・下水処理方法を知る。 ・水の循環を知る。 (ノート・発言)	・川や海を汚さないために自分ができることを考える。 (感想・発言)	
	○活動の計画を立てる。 (有家川水生生物調査) ・水生生物を指標とした水質調査。 (3)	・有家川にすむ水生生物を探す。 (活動)	・すんでいる生物から水質がきれいかどうか調べる。 (活動)	・川を守るためにできることを考える。 (ノート)	
	○活動の計画を立てる。 (植林体験) ・植林の仕方を学ぶ。 ・植林する意味を知る。 ・山と海の豊かさについて考える。 (3)		・植林をする必要性を知る。 ・山と海の豊かさのつながりを知る。 (ノート・発言)	・水産資源を守るために自分ができることを考える。 (ノート)	・漁業のために山を利用していることに気付く。 (ノート)
	○見学の計画を立てる。 (種市高校海洋開発科) ・南部もぐりの見学。 ・どのような仕事をしてい	・海の仕事に興味をもつ。	・海の仕事について		・海の恵みを利用している

	るか調べる。 (2)	(活動)	知る。 (活動)		ことを知る。 (ノート)
ま と め る 4	○活動を通して分かったこと・感じたこと・考えたことについてまとめる。 ・他の地域と比べてみて。 ・考察。 ・プレゼンテーション作り (4)			・水産資源を守るための取り組みを考えている。 (発表資料)	
ひ ろ げ る 2	○発表会をする。 ・次年度へ向け活動の視点をもつ。 ・さらに調べてみたいことへの意欲付け。(1)		・今後の課題につなげている。 (発表)		

5年 単元計画

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）			
		親しむ	知る	守る	利用する
つかむ 4	○ウニの殻剥きの見学学習を行う。（2）	・地元の特産品に関心をもつ。	・地元の海がウニの成長に適した場所であることを知る。		
	○個人研究の発表会を行う。（2）	・地元の海からの恵みに関心をもつ。 （発表）	・地元の海が豊かな漁場であることを知る。（ノート）		
調べ る 14	○地元の海に関わる漁業施設を調べる。（1） ○見学の計画を立てる。 ・八木漁港で水揚げされる水産物 ・漁港で働く人々 ○ノートにまとめる。（4）		・地域には漁業施設がたくさんあることを知る。（活動・インタビュー） ・地元水産業の特徴を調べている。 ・予想と比べながら見学を行っている。（インタビュー）		
	○見学の計画を立てる。 （サケマス孵化場 採卵体験） ・遡上したサケの様子 ・採卵を行う漁業関係者の人々の様子（3） ・ノートにまとめる		・孵化場の様子 ・働く人々の工夫や努力（インタビュー・シート） ・日本近海の海流ついて調べている。	・震災の影響から人々が努力を重ね、遡上するサケの数が増加してきたことを考える。（インタビュー）	
	○地域の水産業の特徴を考える。（1） ・豊富な漁場 ・サケの回遊。 ・海流との関わり。 ○地元漁師さんの願いを知る。 ・漁師さんをゲストティーチャーに迎え、願いや地域の良さを知る。（2）		・サケの回遊と海流豊富な水産資源と海流の関係を考えている。（ノート・発言）	・豊かな海を守るために自分達にできることを考える（ノート）	・地形と海流を利用していることに気づいている。 （ノート・発言）
まとめる 4	○活動を通して分かったこと・感じたこと・考えたことについてまとめる。 ・他の地域と比べてみて。 ・考察。 ・プレゼンテーション作り（4）			・水産資源を守るための取り組みを考えている。 （発表資料）	
ひろげる 1	○発表会をする。 ・次年度へ向け活動の視点をもつ。 ・さらに調べてみたいことへの意欲付け。（1）		・今後の課題につなげている。 （発表）		

6年 単元計画

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）			
		親しむ	知る	守る	利用する
つかむ 1	○地域の特産品を知る。		・生活経験から知っていることをまとめている。 (ノート)		
調べ る 14	○見学の計画を立てる。 (ウニ栽培センター) ・ウニの生態。 ・洋野の水産業の仕組み。 ・ウニの養殖の方法。 ・震災の被害。 ○個人新聞にまとめる。 (4)		・ウニの生態と養殖方法を調べている。 ・震災後の影響と復興の様子を調べている。 (活動・インタビュー・)	・ウニを養殖するための環境を守ろうとしている。 (活動・新聞)	
	○見学の計画を立てる。 (修学旅行) ・函館の水産業。 ・開港の歴史。 ・世界とのつながり。 ○壁新聞にまとめる。 (4)		・函館の水産業の特徴を調べている。 ・自分たちが住む地域と比べている。 ・開港の様子から世界とのつながりを調べている。 (インタビュー)	・漁獲量の様子から、海水温・温暖化の影響を考えている。 (新聞)	
	○見学の計画を立てる。 (八木漁港見学) ・地域の漁港の水揚げ。 ・水揚げの特徴。 ・他地域との違い。 (5)	・季節による違いや他地域との違いに気付き、海産物に親しむ。 (活動)	・地域の水産業の特徴について調べている。 (インタビュー・シート)		
	○地域の水産業を見なおす。 (1) ・地形の特徴。 ・土地の利用。 ・先人の工夫。		・増殖溝について調べている。 ・洋野の大地のつくりと先人の工夫を調べている。 (ノート・発言)		・地形と海流を利用していることに気づいている。 (ノート・発言)
まとめる 4	○活動を通して分かったこと・感じたこと・考えたことについてまとめる。 ・他の地域と比べてみて。 ・考察。 ・プレゼンテーション作り (4)			・水産資源を守るための取り組みを考えている。 (発表資料)	
ひろげる 1	○発表会をする。 ・次年度へ向け活動の視点をもつ。 ・さらに調べてみたいことへの意欲付け。(1)		・今後の課題につなげている。 (発表)		